

Bacteraemia predictive factors among general medical inpatients: a retrospective cross-sectional survey in a Japanese university hospital

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2019-06-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 福井, 早矢人 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002516

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 乙第 2451 号

Bacteraemia predictive factors among general medical inpatients: a retrospective cross-sectional survey in a Japanese university hospital

(日本の大学病院総合診療科入院患者における菌血症予測因子の横断研究)

福井 早矢人 (ふくい さやと)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、医学が日々発展している現代でも未だに死亡率が高い菌血症の診療において、血液培養を提出する基準になりうる菌血症予測因子（血液培養陽性の予測因子）を検討した。2011年1月1日から2012年12月31日までに順天堂大学総合診療科に入院し血液培養を提出した全患者を対象とした。臨床情報からの各パラメーターを、陰性群及び陽性群にて単変量解析及び多変量解析を行い、菌血症予測因子を解析した。計200人の血液培養提出患者に対して、57人の血液培養陽性患者を認めた(28.5%)。解析の結果として、年齢60歳以上(OR=2.75, 95% CI 1.23 to 6.48, p=0.015)、女性(OR=2.21, 95% CI 1.07 to 4.67, p=0.038)、脈拍数90回以上(OR=5.18, 95% CI 2.25 to 12.48, p<0.001)、好中球分画80%以上(OR=3.61, 95% CI 1.71 to 8.00, p=0.001)は独立した菌血症危険因子であった。以上より、脈拍数高値、高齢者、女性患者、好中球分画高値の場合は菌血症である可能性が高く、血液培養提出が特に推奨された。また、血液検査提出時には、血液像による白血球分画の評価を行うことは重要であると考えられた。本研究は、先行研究の少ない領域での横断研究である。血液培養の提出を推奨する条件を、感染症が専門ではない多くの医師でも活用できる項目で示した臨床的に意義ある論文である。

よって、本論文は博士（医学）の学位を授与するに値するものと判定した。